



15/3月期2Q 決算説明会資料

eGuarantee

2014 年11月14日

本資料は、経営戦略等に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的とするものではありません。

本資料には、当社に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提(仮定)の下になされています。

これらの記述または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり、または将来実現しないという可能性があります。

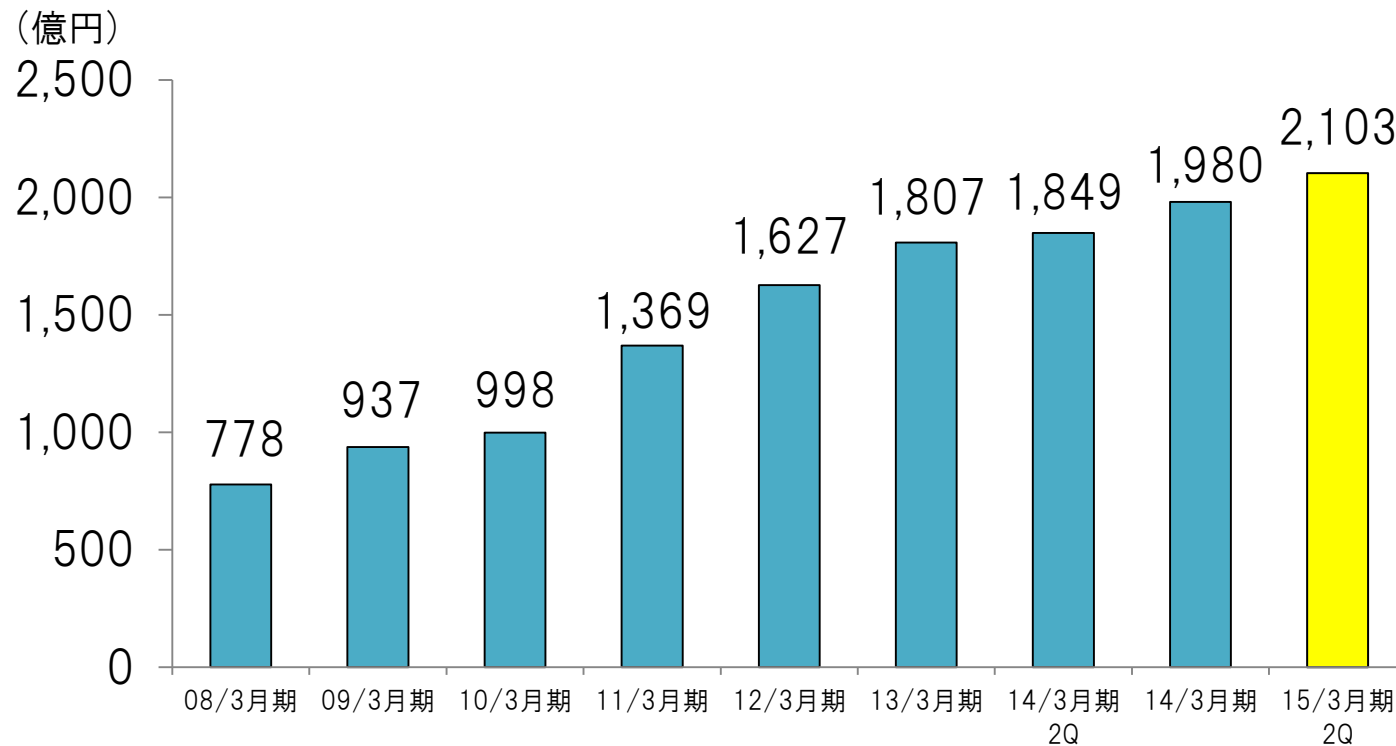
また、本資料に記載されている当社以外の情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

イー・ギャランティ株式会社

15/3月期2Q 業績概要

1. 保証残高拡大

□前期より継続している保証サービスへの引き合い増加により、保証残高は前期末に比べて123億円増加(前期末比6%増加、前年同期比13%増加)。



※ (保証残高は売掛債権保証サービス及び買取債権保証サービスに係る保証債務を合計したもの)

2. 連結損益計算書

□問い合わせ件数の増加により、契約数が想定通り伸びた結果、売上高は前年同期比6.3%増加。

□また、金融緩和等による投資家の期待利回りの低下を背景に、低コストでのファンド組成が可能となったことから原価率が好転し、利益率は上昇。

単位=百万円
比率=%

	14/3月期2Q	構成比	15/3月期2Q	構成比	増減	増減率
売上高	1,855	100.0	1,971	100.0	116	6.3
売上総利益	1,281	69.0	1,467	74.4	186	14.5
営業利益	624	33.6	737	37.4	113	18.1
経常利益	633	34.1	747	37.9	114	18.0
当期純利益	355	19.1	441	22.4	86	24.2

3. 対期初予想比

□依然として倒産件数は抑制されているものの、リスク移転先であるファンドについて好条件かつ長期での組成が可能となったことで、顧客に対しても長期間での保証引受けを前提とした長期契約等が増加し、売上高達成率は98.6%となった。

□低コストでのファンド組成により利益率が上昇したことで、営業利益・経常利益・当期利益はいずれも期初予想を上回った。

単位=百万円
比率=%

	15/3月期2Q (期初予想)	構成比	15/3月期2Q (実績)	構成比	増減	達成率
売上高	2,000	100	1,971	100.0	△ 29	98.6
営業利益	690	34.5	737	37.4	47	106.8
経常利益	700	35	747	37.9	47	106.7
当期純利益	420	21	441	22.4	21	105.0

4. 連結貸借対照表

単位=百万円
比率=%

資産の部				
	14/3月期	構成比	15/3月期2Q	構成比
流動資産	6,655	78.5	6,699	78.9
現預金	4,827	56.9	4,375	51.5
前払費用	1,492	17.6	1,986	23.4
繰延税金資産	163	1.9	163	1.9
その他	173	2.0	175	2.1
固定資産	1,827	21.5	1,789	21.1
投資有価証券	1,536	18.1	1,530	18.0
その他	291	3.4	259	3.1
資産合計	8,483	100.0	8,488	100.0

負債の部				
	14/3月期	構成比	15/3月期2Q	構成比
流動負債	2,971	35.0	2,828	33.3
保証履行引当金	291	3.4	339	4.0
前受金	1,970	23.2	1,832	21.6
その他	710	8.4	657	7.7
固定負債	259	3.1	230	2.7
長期借入金	136	1.6	106	1.2
その他	123	1.4	123	1.4
負債合計	3,231	38.1	3,058	36.0
純資産の部				
株主資本	4,451	52.5	4,681	55.1
資本金	1,451	17.1	1,455	17.1
資本剰余金	861	10.2	865	10.2
利益剰余金	2,401	28.3	2,618	30.8
自己株式	△ 264	△ 3.1	△ 258	△ 3.0
新株予約権	23	0.3	21	0.2
少数株主持分	776	9.2	727	8.6
純資産合計	5,251	61.9	5,429	64.0
負債純資産合計	8,483	100.0	8,488	100.0

□流動化契約の拡充等により前払費用が494百万円増加する一方、現預金が452百万円減少。

□ESOPによる借入金の返済により、長期借入金が30百万円減少。

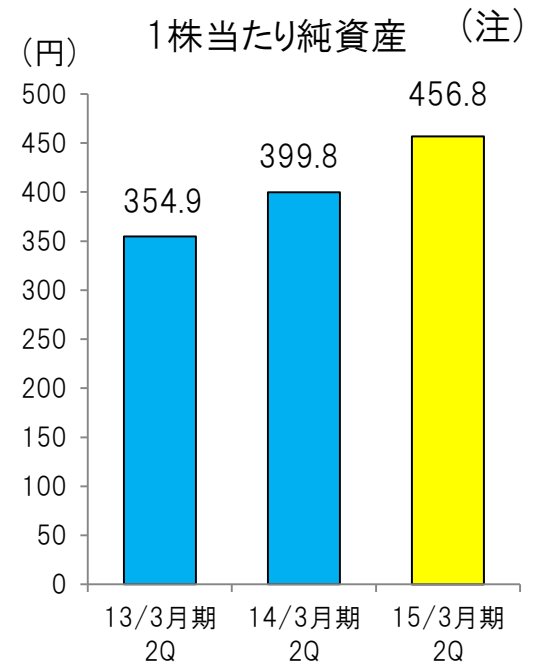
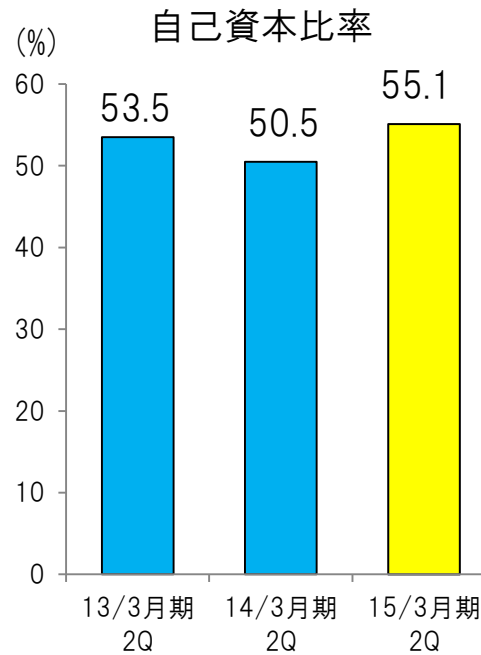
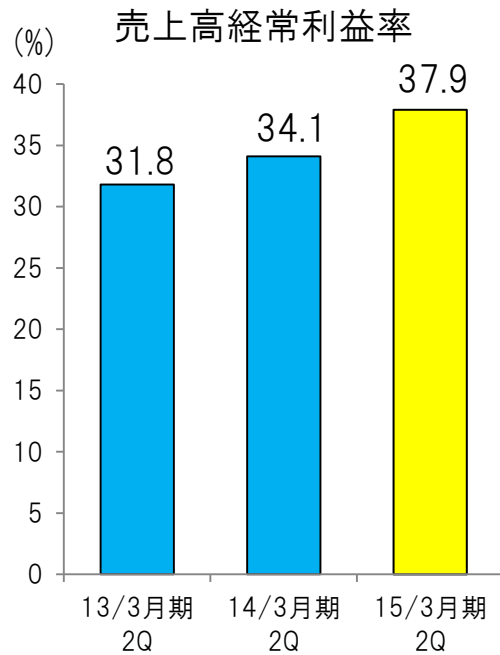
5. 今期の連結業績見通し

□第2四半期連結累計期間は営業利益・経常利益・当期利益いずれも期初予想を上回っており、足元の問い合わせ件数も引き続き増加傾向にあるものの、米国の金融緩和縮小による影響や中国及びその他新興国経済をはじめとする海外景気の下振れ懸念など、不透明な経済環境を鑑みて、通期業績予想は変更せず。

単位=百万円
比率=%

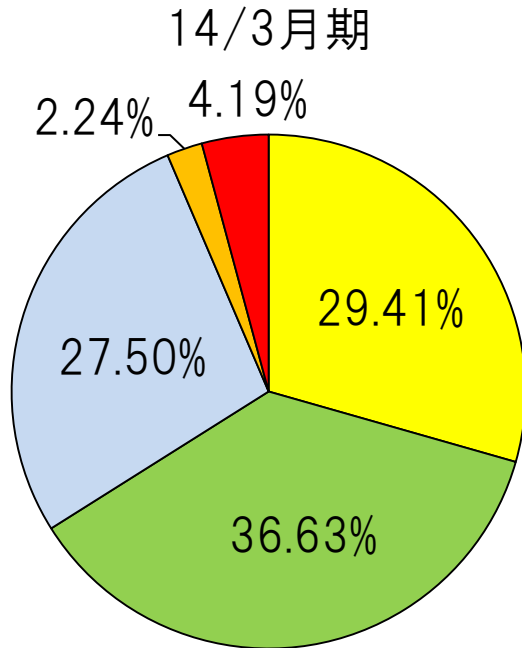
	15/3月期2Q(実績)	15/3月期(予想)	達成率
売上高	1,971	4,200	46.9
営業利益	737	1,530	48.2
経常利益	747	1,550	48.2
当期純利益	441	900	49.0

6. 主要な経営指標

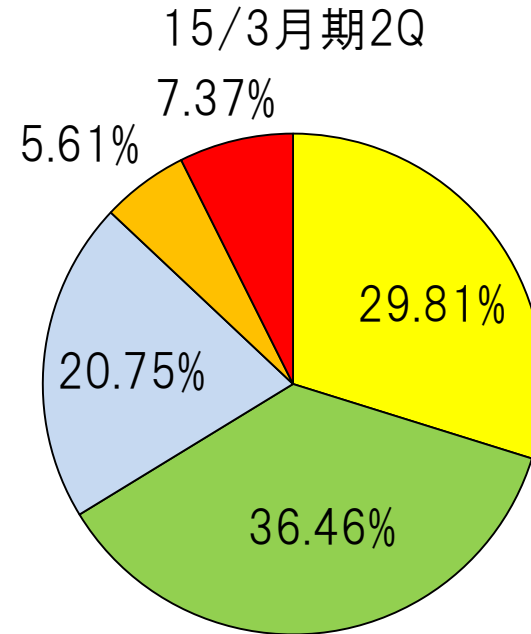


(注) 13年3月1日付で1株を2株とする株式分割を行っており、分割後の金額を遡及して記載。

7. 株主別分布状況



発行済株式数
10,236千株



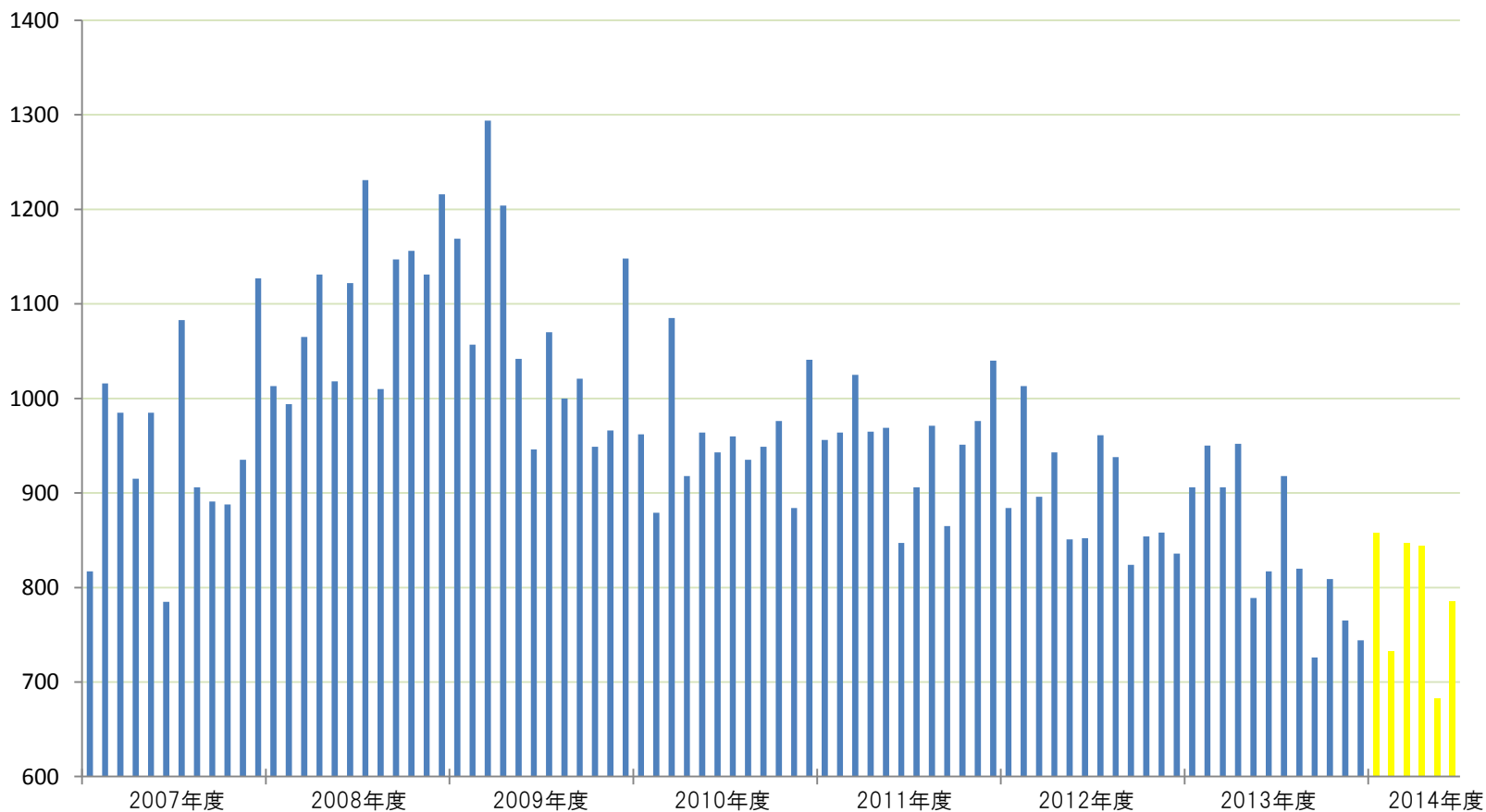
発行済株式数
10,246千株



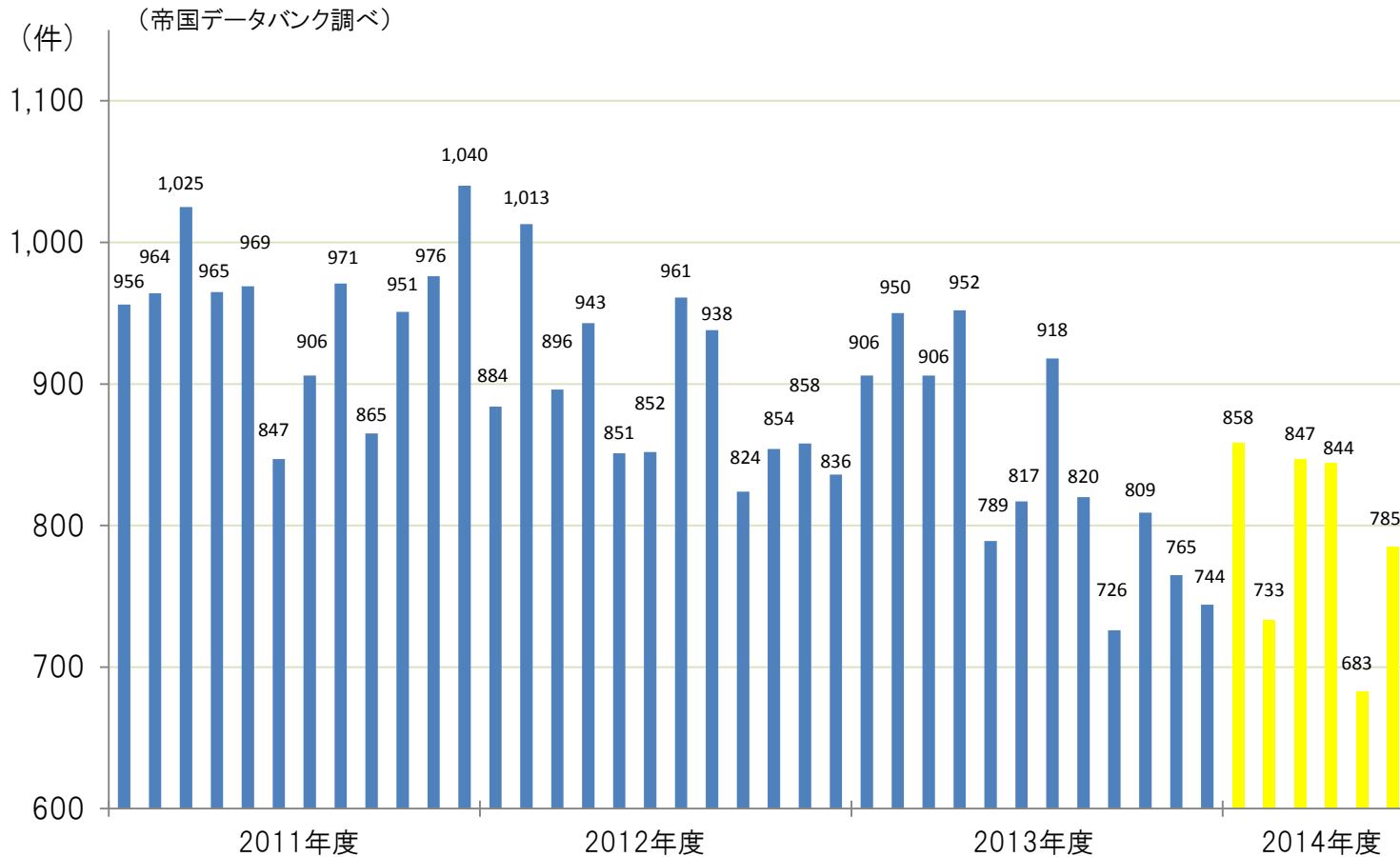
15/3月期の重点施策及び進捗状況

全国倒産件数の推移①(月次件数)

(件) (帝国データバンク調べ)



全国倒産件数の推移②(月次件数)



15/3 月期の取り組み(再掲)

外部環境

金融・経済政策の効果を背景に、緩やかに景気の回復がみられるものの、倒産の潜在的リスクは依然として懸念され、先行きが不透明な経済状況。

基本方針

各種政策効果の継続により抑制されている倒産に対し、引き続き低リスクゾーンの引き受けを実施していく一方で、代表者の連帯保証制限の動きなど、中小企業を取り巻く経営環境の変化に対応することで、顕在化する保証ニーズに応えていく。また直近で増加している顧客からの引き合いに対応し、顧客のセグメントを分離し、セグメントにあった商品提供を行う。

15/3月期 重点施策(再掲)

1. セグメント毎の商品投入
2. 問合せ増加への対応強化
3. 流動化手法の多様化
4. 営業プロセスの変更

15/3月期 重点施策 ①

セグメント毎の商品投入

大企業・中堅企業
向けの商品投入

大企業・中堅企業向けに高額保証や輸出債権保証サービスを一部投入し、サービスラインの拡充を図った。

中小企業向けの
商品投入

中小企業向けの小口債権保証を専門とする子会社を設立し、販売チャネルを中心とした営業展開を行った。

15/3月期 重点施策 ② 問合せ増加への対応強化

バックオフィス 業務の強化

昨年度設立したバックオフィス業務の受託を専門とする子会社へ、各種データ登録や契約事務に関する業務委託を開始した。

Web申込 サービスの導入

Web申込サービスを一部開始し、新規利用の顧客に対しライアルで利用しやすい環境を整備した。

15/3月期 重点施策 ③

流動化手法の多様化

ファンドの新設

新たなファンド、クレジット・ギャランティ1号を設立したことにより、さらに大きなリスクを長期にわたり安定して引き受けることを可能にした。

ストップロス形式による保険の拡充

保証残高の増大に伴ったスケールメリットを活かし、一定金額以上の損害を防止するためのストップロス形式による保険の拡充を図った。

15/3月期 重点施策 ④

営業プロセスの変更

営業活動の 「見える化」

増加した問い合わせに対応するために、営業活動の入り口から出口までを「見える化」する営業支援システムを導入した。これにより適時かつ効率的な営業を実現し、営業担当の早期戦力化を推進することで営業資源の実質的な拡大を図った。

本資料に関するお問い合わせ先
イー・ギャランティ株式会社 経営管理部
03-6327-3662